



Young carers

ヤングケアラーとは？

これらの要因により、子ども・若者がライフステージにおけるそれぞれの段階で得るはずの知識や経験（勉学、友人との付き合いや恋愛などの人間関係）の獲得が阻害されてしまいます。そしてこのことが、ヤングケアラーの状態を脱した後の人生にも影響を及ぼしています。例えば、勉強する時間が確保できなかったことで、上位の教育機関で学ぶことができず、就くことができる職業が制限されます。ともすれば、生涯獲得賃金に格差が生じ、老後の生活にまで影響します。

また、人間関係を作るためのコミュニケーション技術を獲得することができないことにより、学校・職場での孤立やそのことによる退学・退職などの影響も生じます。そして、ケアに費やす時間が睡眠時間を削ることによる健康面での問題も生じることもあります。

では、このような状況や問題はなぜ起こるのでしょうか。

兵庫県がヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口事業を兵庫県社会福祉士会に委託し、2022年6月1日に開設しました。この原稿を書いている時点で8か月が経ち、のべ約241件の相談を受け付けました。相談内容を紐解くと、介護・病气・低所得・滞日外国人など、福祉サービスが必要な方々に対して必要なサービスが提

ここ数年、「ヤングケアラー」という言葉を耳にすることが増えてきました。一体どのような存在なのでしょう。

“Young carers”はケアを担う子ども・若者たちです。「ケア」というと一般的に「世話」「介護」を意味しますが、ヤングケアラーが担っているのは、世話や介護だけではなく、親が担っている家事（料理・洗濯・掃除）、親・きょうだい等の感情的サポート、日本語を話すことができない家族の通訳や、家計を支えるためのアルバイトも含まれます。

「ケア」と「お手伝い」とどう違うのかという論点があります。「お手伝い」には基本的には大人の見守りがあり、「お手伝いをしない」という選択肢があり、短期間・短時間で終わります。しかし、ヤングケアラーが担う「ケア」には大人の見守りがありません。そして、生命にかかわることに「責任」を持たされることが多いです。さらに、その「ケア」の質量はケアラーの「能力」を超えたものを求められることが多いです。また、「ケア」が長時間・長期間にわたるのも特徴といえます。

供されておらず、個人・世帯が複数の生活上の課題を抱えることにより、そのしわ寄せが子ども・若者たちに及んでいるということが分かりました。

かつては、血縁・地縁・社縁などの共同体の機能が生活上の課題を受け止め、また、安定した雇用等による生活保障が強かった時代においては、生きづらさの多様性や複雑性は強く意識されてきませんでした。しかし、地域の結びつきが薄れてきている日本社会においては人々が持つ様々な生活課題として表れ、これまで国が整備してきた子ども・障がい者・高齢者・生活困窮者といった対象者ごとの施策だけでは十分な対応が困難になっており、「ヤングケアラー」という存在を生み出していると考えられます。

したがって、ヤングケアラーへの支援は当然ながらも、ヤングケアラーを取り巻く背景・環境に目を向けて包括的な支援を提供する必要があります。

そして、「ケア」を受ける側の法律・制度・サービスはありますが、ケアラーを支援するための法律・制度・サービスはほとんどありません。ヤングケアラーを支えるためには何が必要なのか、考えていかなければなりません。

保育所、楽しかった？

お母さん、大丈夫だよ

保護者に精神的な支えをしている

幼いきょうだいの世話をしている

先生が言ったのは～

家族に通訳をしている

おばあちゃん、どこ？

家族の見守りをしている

宿題する時間あるかな

家事をしている

力加減、どう？

はい、お口あけて～

家族の介護・看護を日常的にしている